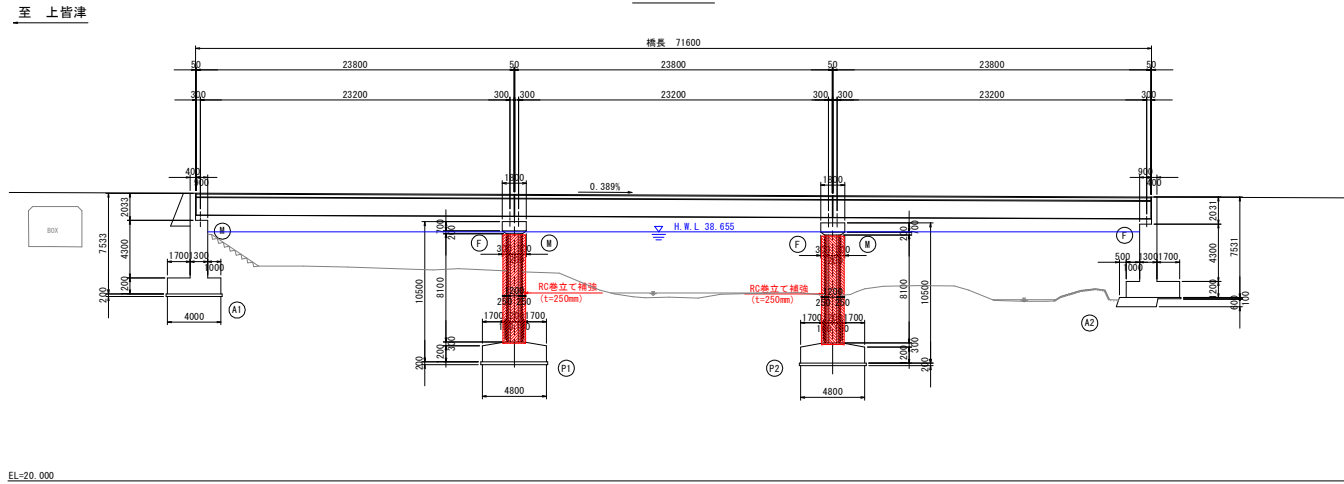


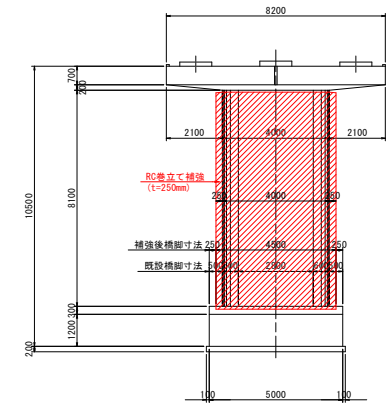
耐震補強橋梁一般図 S=1:200

橋脚耐震補強(日浦橋)

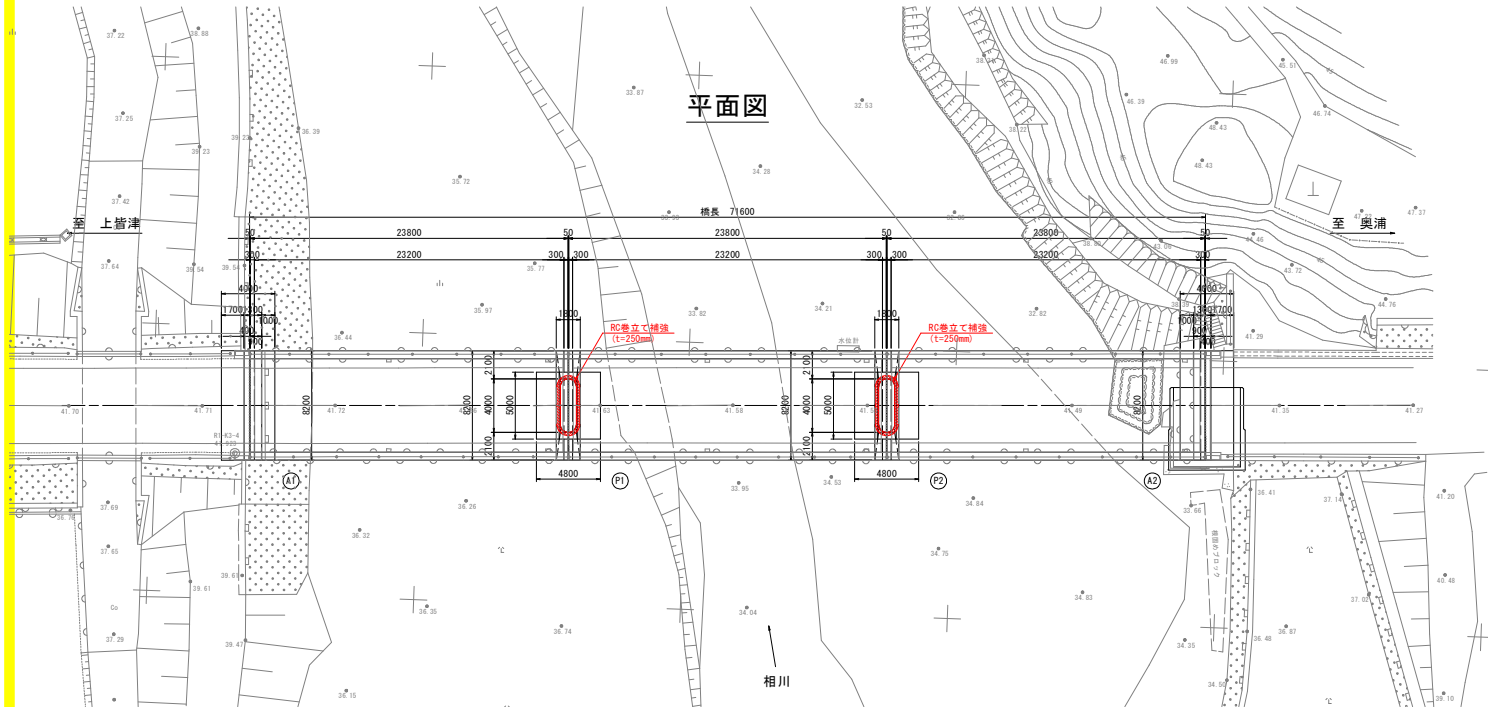
側面図



橋脚補強構造図 S=1:100



平面図



橋梁諸元

設計条件	
道路区分	第3種第4級、設計速度30km/h
橋格	1等橋(TL-20)
形式	上部工 単純支持活荷重合成鋼板桁
	下部工 逆T式橋台
橋長 71,600m	
支間長 23,200m	
幅員	車道 7,000m
	歩道 -
平面線形	直線
床版厚係数	1.05
大型車交通量	500台未満 台/日/1方向
床版厚	210mm
設計震度	橋台kh=0.20、橋脚kh=0.20
コンクリートの設計基準強度	上部工 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	下部工 $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$
許容応力度	上部工 コンクリート $\sigma_{sa}=8.6\text{N/mm}^2$
	鉄筋 $\sigma_{sa}=140\text{N/mm}^2$
	下部工 コンクリート $\sigma_{sa}=7\text{N/mm}^2$
	鉄筋 $\sigma_{sa}=160\text{N/mm}^2$
計画高水流量	Q=370m ³ /s
計画高水位	H.W.L=38.655m

補強設計

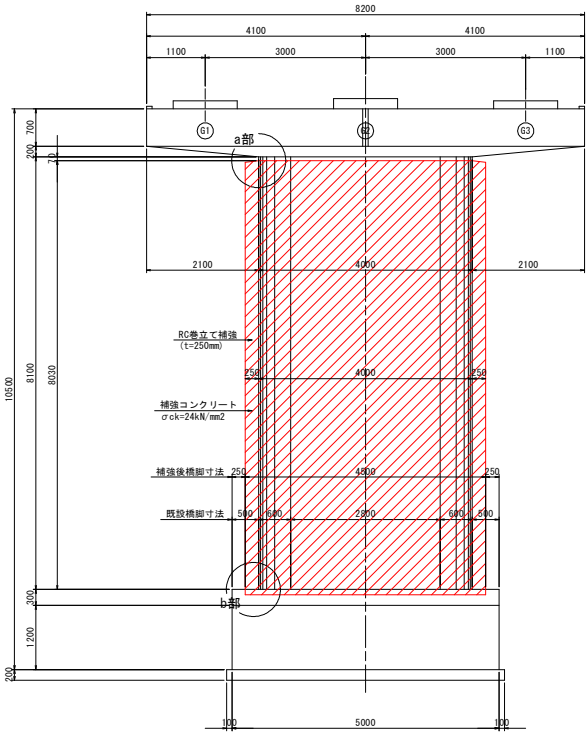
橋脚耐震補強	RC巻立て工法(t=250mm)
適用示方書	平成24年 道路橋示方書・同解説

当初設計図面

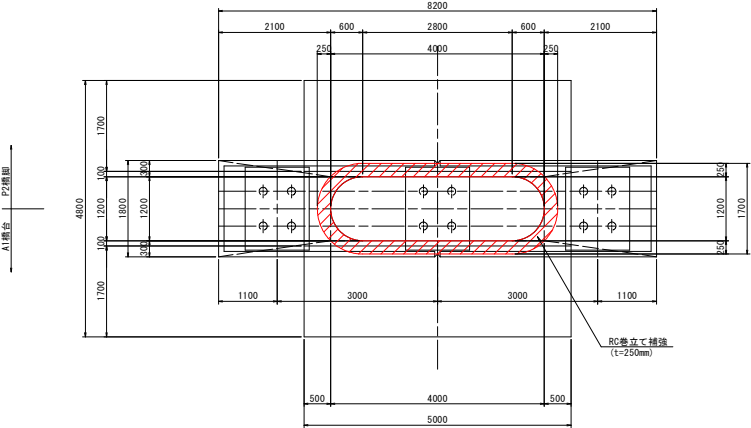
工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋) 海・相川 橋梁耐震補強工事
路線名等	(一) 上皆津奥浦線
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	耐震補強橋梁一般図
縮尺	図示 図面番号 1/7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

P1橋脚補強構造図 S=1:50

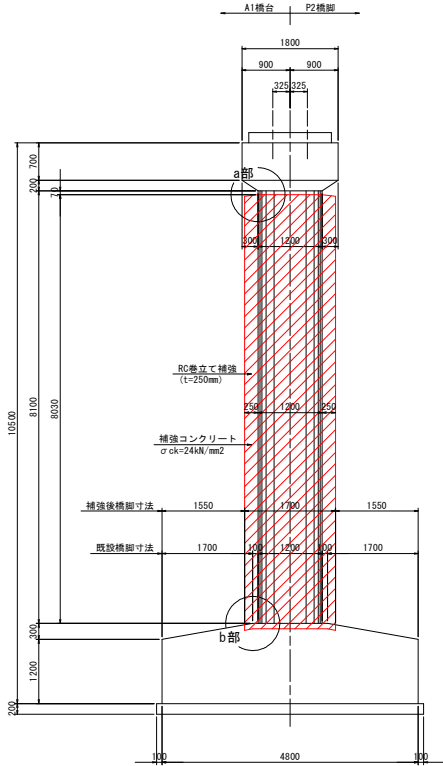
正面図



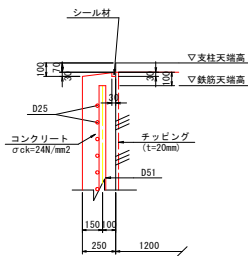
平面図



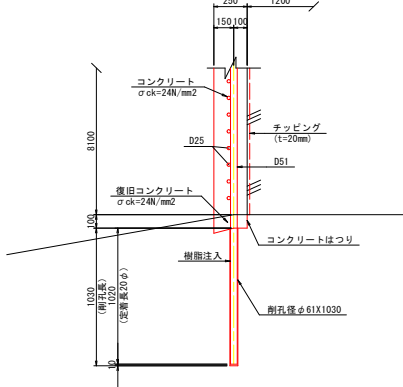
側面図



a部詳細図 S=1:20



b部詳細図 S=1:20

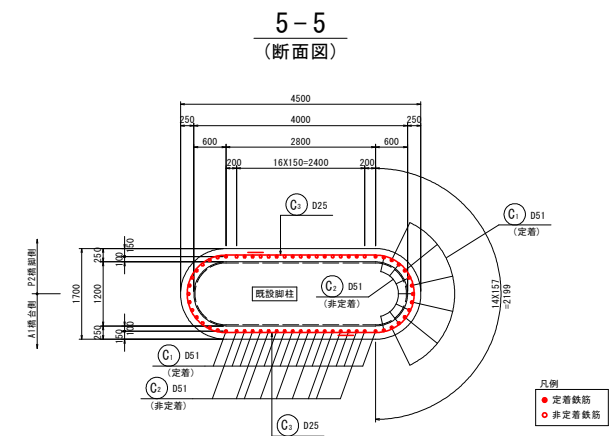
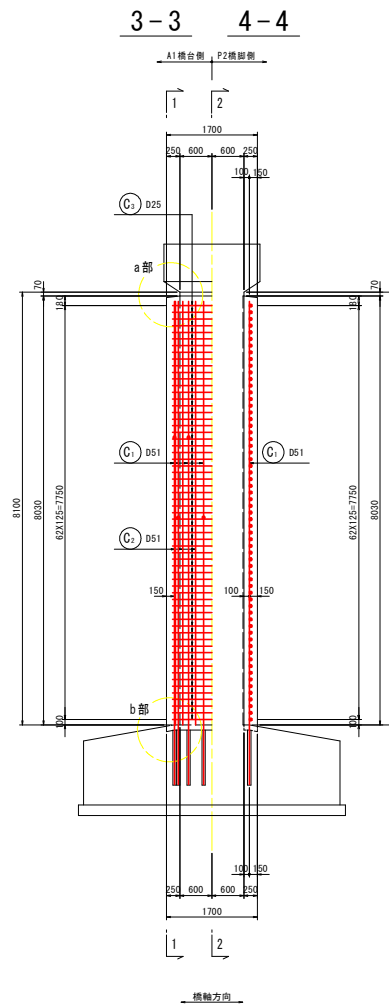
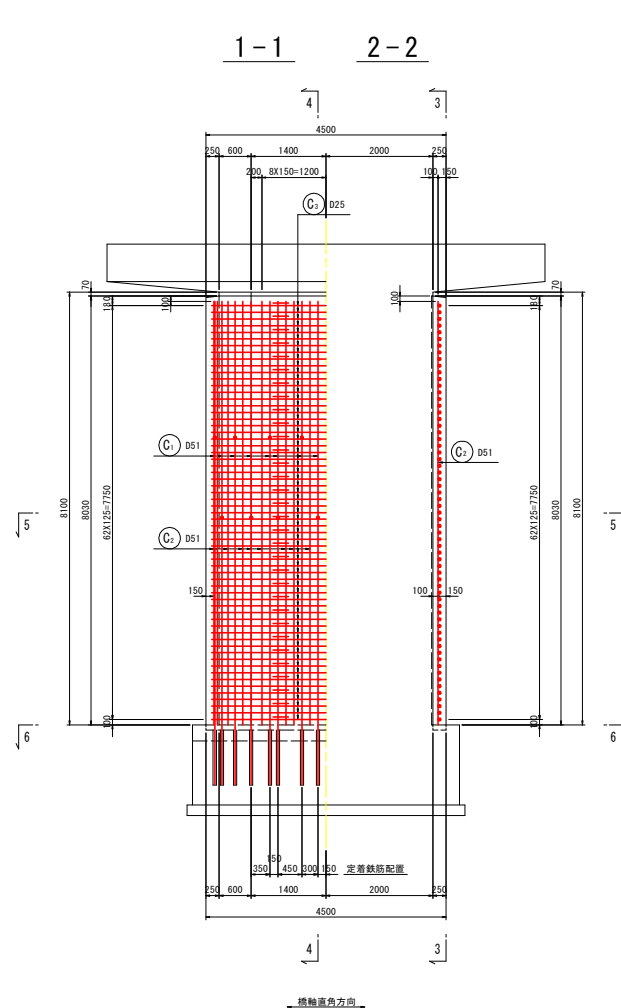


注記)
※柱部軸方向主鉄筋の削孔位置は既設底版の鉄筋をハツリにより確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
ただし、主鉄筋の規定本数は必ず確保すること。このときの配置間隔は300mmまでとし、純あきは以下の数値を確保する。
[・粗骨材の最大寸法の4/3倍以上かつ40mm以上
・鉄筋直径の1.5倍以上 → D51 x 1.5 = 76.5mm以上
※柱部の主鉄筋の圧接位置は、左右方向に対してそれぞれずらして配置を行うこと。
※柱部の帯鉄筋は主鉄筋組立寸法を確認し施工をすること。
※柱部の帯鉄筋のフレア溶接位置は、上下方向に対してそれぞれ、25φ以上離して(反転して)配置を行うこと。
※純かぶりは70mm以上を確保する。
※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
※主鉄筋の削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。

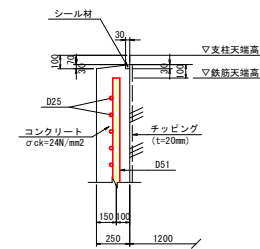
当初設計図面

工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋)
路線名等	海・相川 橋梁耐震補強工事
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	P1橋脚補強構造図
縮尺	図示 図面番号
会社名	2 / 7
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

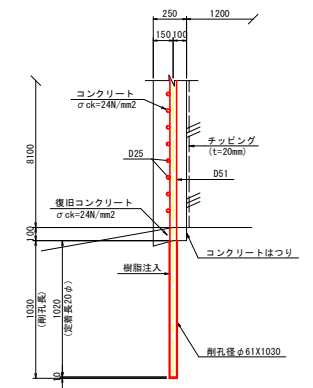
P1橋脚補強配筋図(その1) S=1:50



a部詳細図 S=1:20



b部詳細図 S=1:20

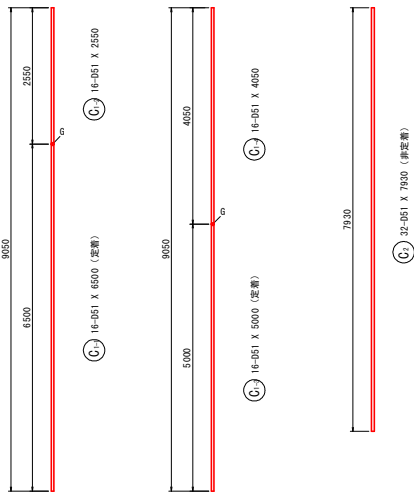
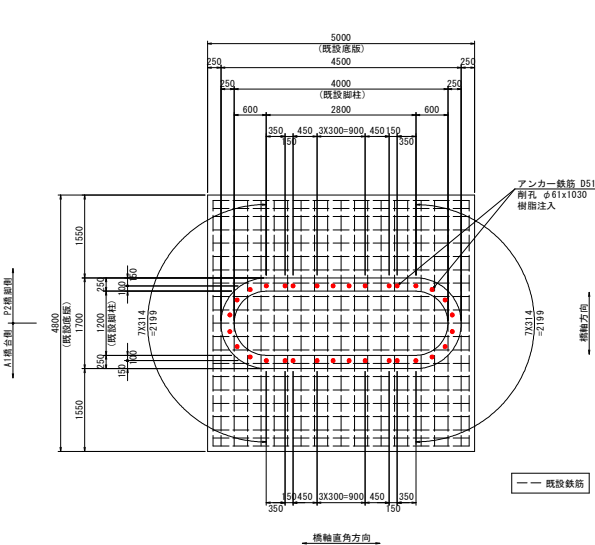


当初設計図面

工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋) 海・相川 橋梁耐震補強工事
路線名等	(一) 上皆津奥浦線
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	P1橋脚補強配筋図(その1)
縮尺	図示 図面番号 3/7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

P1橋脚補強配筋図(その2) s=1:50

6-6
(基部定着鉄筋削孔位置)



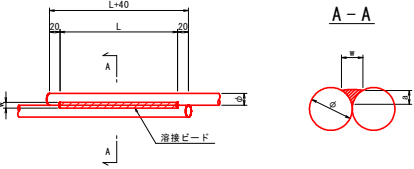
鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
C 1-1	D51	6500	16	15.9	103.35	1654	(16)
C 1-2	D51	2550	16	15.9	40.55	649	(16)
C 1-3	D51	5000	16	15.9	79.50	1272	(16)
C 1-4	D51	4050	16	15.9	64.40	1030	(16)
C 2	D51	7930	32	15.9	126.09	4035	(32)
C 3	D25	5410	126	3.98	21.53	2713	(126)
11353							
(圧接箇所)							
合計 D51							8640 kg (32)
D25							2713 kg
総質量							11353 kg (32)

注記)

- ※柱部軸方向主鉄筋の削孔位置は既設底版の鉄筋をハツリにより確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
ただし、主鉄筋の規定本数は必ず確保すること。このときの配置間隔は300mmまでとし、純あきは以下の数値を確保する。
・粗骨材の最大寸法の4/3倍以上かつ40mm以上
・鉄筋直径の1.5倍以上 → D51 x 1.5 = 76.5mm以上
※柱部の主鉄筋の圧接位置は、左右方向に対してそれぞれずらして配置を行うこと。
※柱部の帯鉄筋は主鉄筋組立後寸法を確認し施工すること。
※柱部の帯鉄筋のフレア溶接位置は、上下方向に対してそれぞれ、25φ以上離して(反転して)配置を行うこと。
※純かぶりは70mm以上を確保する。
※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
※主鉄筋の削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。

フレア溶接詳細図

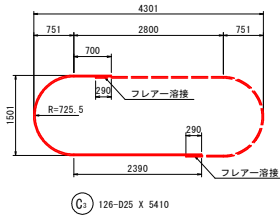


寸法表

(mm)

φ	w	a	L	L+40
D16	8.0	3.2	160	200
D19	9.5	4.4	190	230
D22	11.0	5.6	220	260
D25	12.5	5.8	250	290
D29	14.5	7.3	290	330

注) フレア溶接の施工管理については、土木学会における「鉄筋定着・継手指針(2020年版)」によるものとする。



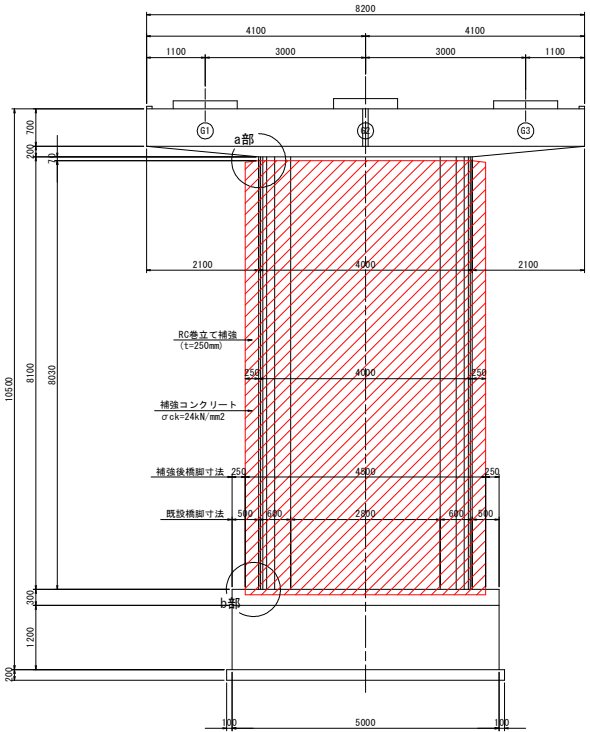
注) 帯鉄筋の継手は、一断面に集中させないよう平島配置とすること。

当初設計図面

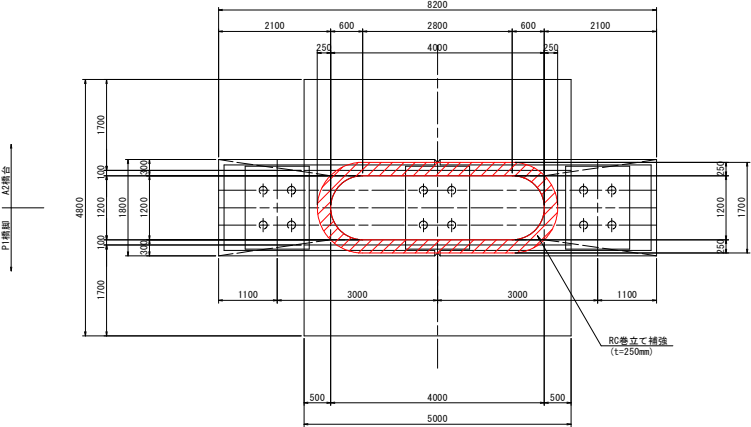
工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋)海・相川 橋梁耐震補強工事
路線名等	(一) 上皆津奥浦線
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	P1橋脚補強配筋図(その2)
縮尺	図示 図面番号 4 / 7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

P2橋脚補強構造図 S=1:50

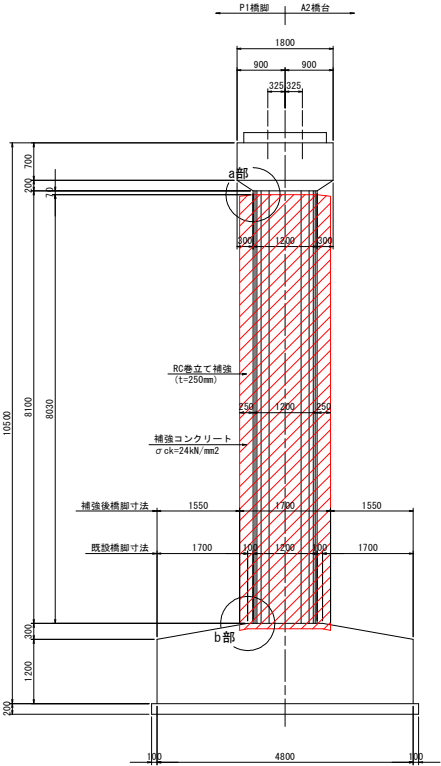
正面図



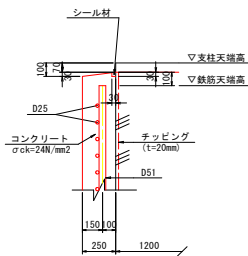
平面図



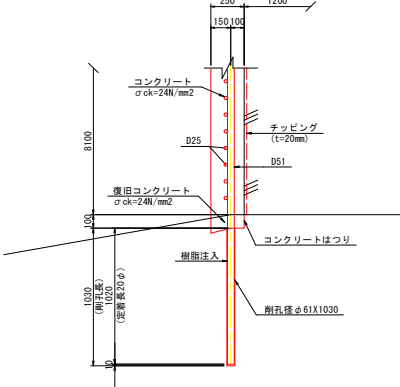
側面図



a部詳細図 S=1:20



b部詳細図 S=1:20

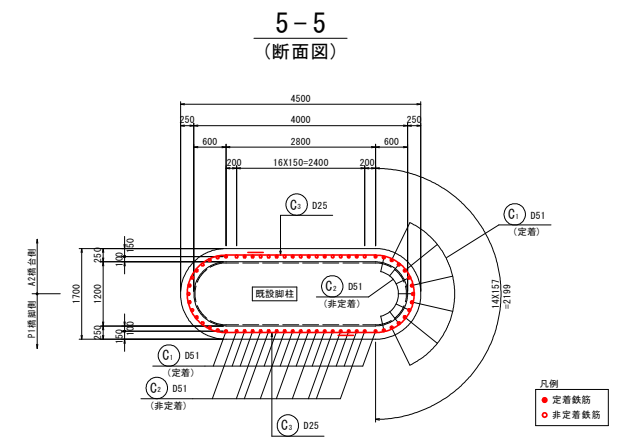
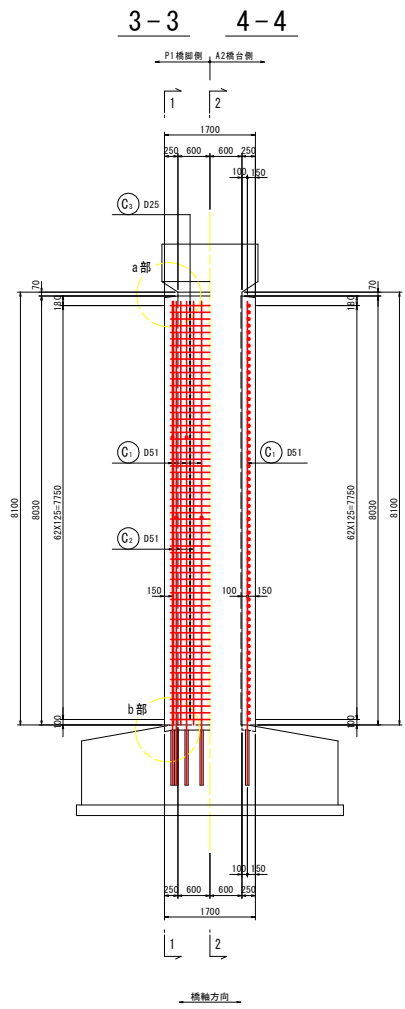
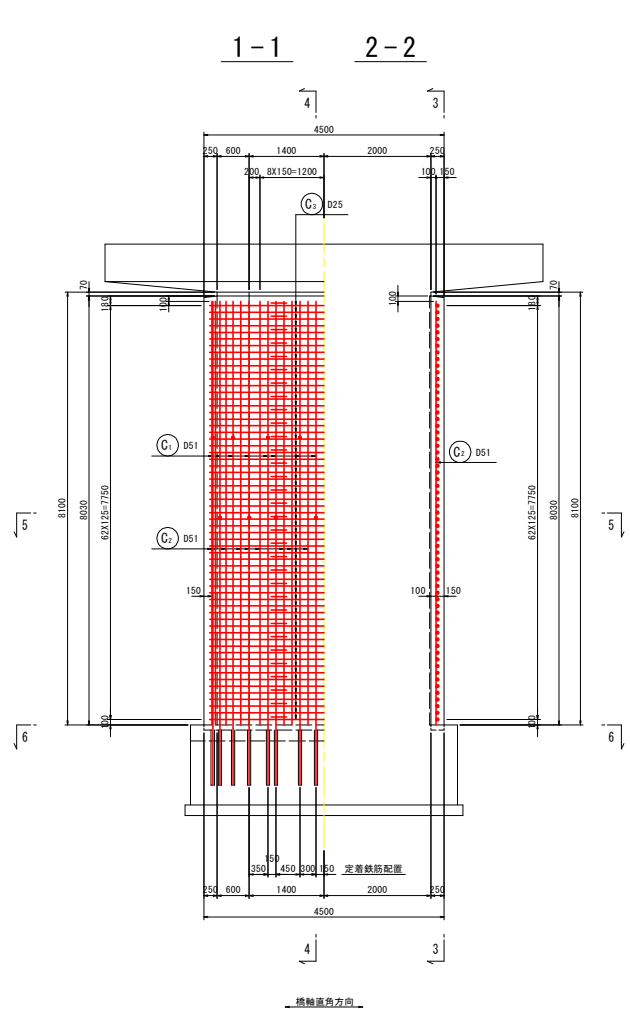


注記)
※柱部軸方向主鉄筋の削孔位置は既設底版の鉄筋をハツリにより確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
ただし、主鉄筋の規定本数は必ず確保すること。このときの配置間隔は300mmまでとし、純あきは以下の数値を確保する。
〔・粗骨材の最大寸法の4/3倍以上かつ40mm以上
・鉄筋直径の1.5倍以上 → D51 x 1.5 = 76.5mm以上
※柱部の主鉄筋の圧接位置は、左右方向に対してそれぞれずらして配置を行うこと。
※柱部の帯鉄筋は主鉄筋組立寸法を確認し施工をすること。
※柱部の帯鉄筋のフレア溶接位置は、上下方向に対してそれぞれ、25φ以上離して(反転して)配置を行うこと。
※純かぶりは70mm以上を確保する。
※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
※主鉄筋の削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。

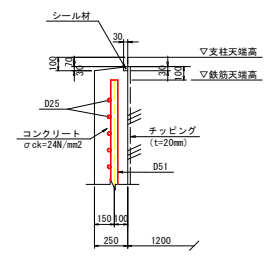
当初設計図面

工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋)
路線名等	海・相川 橋梁耐震補強工事
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	P2橋脚補強構造図
縮尺	図示 図面番号 5 / 7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

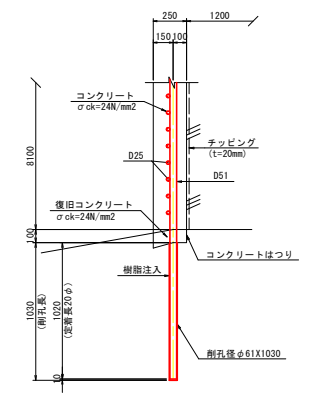
P2橋脚補強配筋図(その1) S=1:50



a部詳細図 S=1:20



b部詳細図 S=1:20



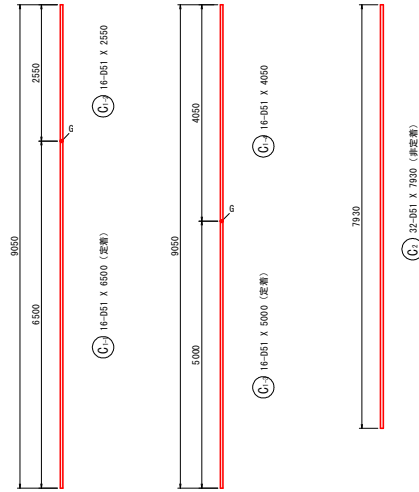
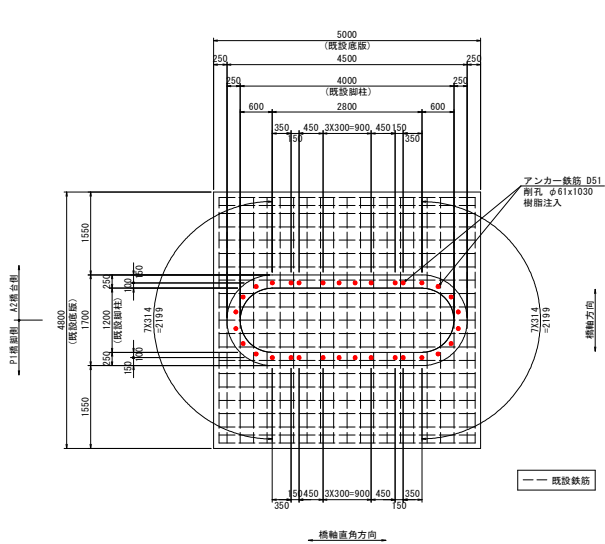
当初設計図面

工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋) 海・相川 橋梁耐震補強工事
路線名等	(一) 上皆津奥浦線
工事箇所	海部郡海陽町相川(日浦橋)
図面名	P2橋脚補強配筋図(その1)
縮尺	図示 図面番号 6/7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)

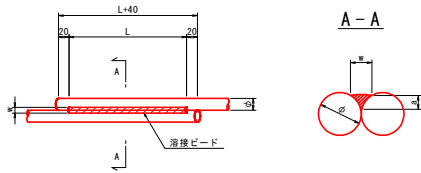
P2橋脚補強配筋図(その2) s=1:50

6-6

(基部定着鉄筋削孔位置)



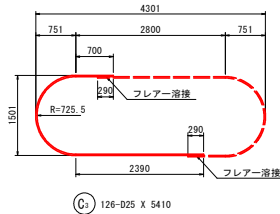
フレアー溶接詳細図



寸法表 (mm)				
φ	w	a	L	L+40
D16	8.0	3.2	160	200
D19	9.5	4.4	190	230
D22	11.0	5.6	220	260
D25	12.5	6.8	250	290
D29	14.5	7.3	290	330

注) フレアー溶接の施工管理については、土木学会における「鉄筋定着・継手指針(2020年版)」によるものとする。

W:溶接ビードの幅
 $w \geq 1/2 \times \phi$
a:のど厚
 $a \geq 0.39 \times \phi - 3$ (10mm < $\phi \leq 22$ mm)
 $a \geq 0.39 \times \phi - 4$ ($\phi > 22$ mm)
L:溶接長
 $L \geq 10 \times \phi$
 ϕ :鉄筋径 D (呼び径)



注) 帯鉄筋の継手は、一断面に集中させないよう平島配置とすること。

鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
C 1-1	D51	6500	16	15.9	103.35	1654	(16)
C 1-2	D51	2550	16	15.9	40.55	649	(16)
C 1-3	D51	5000	16	15.9	79.50	1272	(16)
C 1-4	D51	4050	16	15.9	64.40	1030	(16)
C 2	D51	7930	32	15.9	126.09	4035	(32)
C 3	D25	5410	128	3.98	21.53	2713	(128)
11353							
(圧接箇所)							
合計 D51							8640 kg (32)
D25							2713 kg
総質量							11353 kg (32)

注記)

- ※柱部軸方向主鉄筋の削孔位置は既設底版の鉄筋をハツリにより確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
- ただし、主鉄筋の規定本数は必ず確保すること。このときの配置間隔は300mmまでとし、純あきは以下の数値を確保する。
 - ・粗骨材の最大寸法の4/3倍以上かつ40mm以上
 - ・鉄筋直径の1.5倍以上 → $D51 \times 1.5 = 76.5\text{mm}$ 以上
- ※柱部の主鉄筋の圧接位置は、左右方向に対してそれぞれずらして配置を行うこと。
- ※柱部の帯鉄筋は主鉄筋組立後寸法を確認し施工すること。
- ※柱部の帯鉄筋のフレア溶接位置は、上下方向に対してそれぞれ、25φ以上離して(反転して)配置を行うこと。
- ※純かぶりは70mm以上を確保する。
- ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
- ※主鉄筋の削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。

当初設計図面

工事名	R7波土 上皆津奥浦線(日浦橋)海・相川 橋梁耐震補強工事
路線名等	(一) 上皆津奥浦線
工事箇所	海部郡海陽町相川 (日浦橋)
図面名	P2橋脚補強配筋図(その2)
縮尺	図示 図面番号 7/7
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局 県土整備部(美波)